



フォントの役割を解説する阿部取締役＝浜松市中区の静岡文化芸術大

## フォントの機能解説

静岡文化芸術大メーカーが講義

浜松市中区の静岡文化芸術大は4日、本紙が導入している書体「ミンゴ」を開発したフォントメーカー「イワタ」(東京都千代田区)の阿部浩之取締役(61)による講義を同大で開いた。

小浜朋子准教授(デザイン学部)のユニバーサルデザイン(UD)などを学ぶ講義のゲストとして。

阿部取締役は広告や書籍のデザインを示しながら「フォントは内容を表現する入り口に当たり、重要。見やすさの追求によって情報がスムーズに伝わる」と強調。

学生は実際に本紙の紙面を読み、明朝体とゴシック体の良さを併せ持つミンゴの特徴を確かめた。